

平成25年度関西支部報告



H26_3_8_共晶会関西支部総会

平成25年度共晶会関東支部活動報告

平成25年度共晶会関東支部総会には細井祐三先生、佐野正道先生、名古屋大学から御招きした平澤政廣教授および同窓生を含め14名の方々が参加されましたが、今年度の総会は波乱の幕開けとなりました。開催当日の早朝に茨城県南部を震源地とする震度5の地震があり、関東一円で交通機関の乱れがありました。新幹線がその影響で止まっているのではないかと思います心配しましたが、開会時間の直前に平澤先生がお見えになりました。お聞きした所、浜松市における不発弾の処理の為に新幹線が止まったとの事で、不発弾にもめげず時間前に会場に来られた先生の姿に事務局一同安堵して総会が始まりました。先生は北海道大学理学部化学系のご出身で、名古屋大学工学部には、当初、森一美教授が担当されていた金属第2講座に在席されました。一時期、東北大学素材工学研究科におられ、その後、名古屋大学に戻ってこられたとのことです。現在は、物質制御工学専攻材料解析学講座環境材料科学グループの研究室を担当され、マテリアル理工学専攻材料工学分野も並担されおり、非常に忙しい日々を送っておられる様子でした。

講演会では、4号館と5号館自体やその周囲が毎年変遷している様子が将来構想を交え写真で紹介された後、10講座で始まった金属工学・鉄鋼工学から12講座の材料機能・プロセス工学を経て、現在の大専攻・大講座制への変遷について説明がありました。また、現在のマテリアル理工学専攻にある各研究室の研究陣および研究内容を一通り、懇切丁寧に話していただきました。予定した時間が押し迫ったため、先生ご自身の研究内容については僅かな時間で説明していただく事になりましたが、主な研究テーマは、無機系・有機系材料のリサイクリングおよび材料再生プロセスで反応工学・プロセス工学に基づく無機・有機材料廃棄物からの素材プロセスや有害物質の無害化処理プロセスの探求だそうです。In,Ga,Se等で特に塩化アンモニウムを利用してInをInCl化することにより低環境負荷で簡単に回収できること、ITO 蒸着ガラスからInを回収する場合に試料性状により回収率が大きく異なるなど、最近の環境に対するムードの高まりを反映した興味ある講演内容でした。

今年も講演会の後は懇親会に入り、先生を囲んで人生経験豊富な色々な方々とともに歓談の時間を過ごすことができました。昭和27年卒の細井先生は相変わらず御元気で毎年参加していただいています。また、今年は佐野先生にもわざわざ名古屋から駆けつけていただきました。さらに昭和30年卒の星野先輩も80才を越してもなお御元氣な姿を見せていただきました。今年は参加人数が若干少な目で一人当たりの持ち時間が例年に比べて長目に出来るということで各参加者による近況報告を始めました。一旦マイクを手を持ったらなかなか離そうとしない方が多く、あっという間に予定の終了時間になった感がありましたが、終始和やかな雰囲気下で支部会が行われました。写真撮影を最後に行い、来年の再開（2014年11月9日の予定）を祈念して閉会となりました。

（共晶会関東支部長 柴山卓眞）

